

項目	10年以上	6～10年	3～5年	1～2年
学生実習への 取り組み	実習生に対して全体像を把握し 臨床業務における内容を共有し 発表会の資料に助言する（認定 実務実習指導薬剤師取得等）	実習生に対して専門性を持った クリニカルな指導を行い、症例 発表会の資料に助言できる	実習生に対して全体的に実習内 容について指導できる	実習生に対してセントラル業務 を指導できる
自己				
他者	認定実務実習指導薬剤師	認定実務実習指導薬剤師	認定実務実習指導薬剤師	3年目以降薬剤師
自己研鑽	学会や研究会、講演会、シンポ ジウムなどで発表、講演する 論文を執筆する	地域の医療者や市民、薬剤師会 主催の勉強会及び研修会で発表 する	薬剤部外（院内委員会など）の 勉強会又は研修会で発表する	薬剤部内の勉強会又は研修会で 発表する
自己				
他者	係長相当	副主任薬剤師相当	6年目以降薬剤師	3年目以降薬剤師
認定取得に向けての 取り組み	認定薬剤師を取得し、その資格 を維持している	認定薬剤師を取得し、その資格 を維持している	専門性を高め認定薬剤師などの 資格取得に動く	専門を目指す方向性を考える （興味がある分野を把握する）
自己				
他者	係長相当	副主任薬剤師相当	6年目以降薬剤師	3年目以降薬剤師

化学療法	がん化学療法の問題点を把握し、問題解決策を提案できる。また、必要に応じて、他の薬剤師や他の職種につなげることができる。地域連携にも参画できる。	院内で使用する主なレジメンについて知っている。各種診療ガイドラインを知っており、必要に応じて調べることができる。院内のがん化学療法に関するプロトコールについて知っている。	担当病棟のよく使用する化学療法レジメンについて、スケジュール、副作用・支持療法について知っている。新規レジメン申請について知っている。	どのような流れで化学療法がおこなわれているかわかる状態（外来・入院）。化学療法に関する連絡を受けたときに、どのように対応するかわかる。内服抗がん薬について、主な品目について知っている。院内の抗がん剤暴露対策マニュアル、血管外漏出対応フローチャートについて知っている。
自己				
他者	係長相当	副主任薬剤師相当	6年目以降薬剤師	3年目以降薬剤師
薬品管理	医薬品の流通における問題点を把握し、院内・院外における交渉、問題解決ができる 各種システムを把握し、後任の教育を行うことができる 中小自治体病院の経営を学ぶセミナーへの参加（全国自治体病院協議会）	医薬品の流通における購入のための手続き、マスタ作成・変更に対する知識・技能の習得 医薬品の購入における在庫管理、流通における交渉を行うことができる (別紙 5~10年研修項目)	院内における医薬品使用のための手続き、マスタ作成・変更に対する知識・技能の習得（別紙 3~5年研修項目）	日直・当直業務を実施可能な知識、技能の取得 (別紙 初期研修項目)
自己				
他者	係長相当	副主任薬剤師相当	6年目以降薬剤師	3年目以降薬剤師

病棟薬剤業務	薬学的介入を通じ、患者のアドヒアランスを向上させることができる。薬物療法の問題解決に関する提案・実践について後輩に指導できる。プロトコルに基づく処方代行入力の鑑査を担うことができる。	薬学的介入を通じ、患者のアドヒアランスを向上させることができる。薬物療法の問題点を評価し、問題解決策を提案・実践し、薬物療法の個別最適化ができる。プロトコルに基づく処方代行入力を担うことができる。	お薬の使用目的を的確に伝え、薬に対する理解を向上させることができる。薬物療法の評価に必要な情報源を効果的に収集し評価することができる。	お薬の説明書をもとに薬の説明ができる。自分の担当患者の処方内容における疑義照会ができる。処方されたお薬が投与されるまでの流れが理解できる。
自己				
他者	係長相当	副主任薬剤師相当	6年目以降薬剤師	3年目以降薬剤師
薬剤管理指導 コミュニケーション	院内スタッフや患者だけでなく、地域や他院の薬剤師と良好なコミュニケーションを図ることができる。院内スタッフや地域の薬剤師から名指しで指名され相談を受けるなどの関係を築くことができる。	院内スタッフ・患者等と良好なコミュニケーションを図り、名指しで指名され相談を受けるなどの関係を築いている。院外の薬剤師等で連絡・相談ができる方が複数名いる。	外科系・内科系の複数病棟での経験をもとに、担当病棟における多職種からの相談応需や、薬剤情報提供において適切なコミュニケーションを図ることができる。	患者の訴えに傾聴し、良好なコミュニケーションを図ることができる。病棟からの問い合わせに対し、フロアリーダーやプリセプターに相談しながら対応することができる。
自己				
他者	係長相当	副主任薬剤師相当	6年目以降薬剤師	3年目以降薬剤師
各種算定業務	フロアリーダーとしてチームの薬剤管理指導業務等の算定率を把握し、業務のバランスを図ることができる。	処方内容の見直しや連携充実に関連した加算について理解し、実施することができる。自身の算定状況を確認し検討している。	各種算定の目的を理解した上で、効果的な介入について考えることができる。	薬剤管理指導料、麻薬管理指導料等、病棟に関連した各種加算の算定基準について学習し算定している。
自己				
他者	係長相当	副主任薬剤師相当	6年目以降薬剤師	3年目以降薬剤師